

報告タイトル

トルコと欧州におけるクルド関係出版物の特徴と連関:クルドアイデンティティに関する言説を中心に “Characteristics and Relations of Kurdish Publications in Turkey and Europe: Focusing on the Discourse on Kurdish Identity”

氏名(所属)

能勢 美紀(アジア経済研究所)
Miki Nose (Institute of Developing Economies)

要旨(800字程度)

本報告では、トルコにおけるクルド関係資料の出版状況を概観し、出版の代替地としての欧州の重要性と、そこでの出版物の特徴およびトルコでのクルド関係資料の出版との関連を指摘する。また、これら出版物の言説を分析し、出版物がクルドアイデンティティの形成にはたしてきた役割の大きさについて検討する。

広く知られているように、トルコでは共和国建国以来、トルコ民族を核とする国民国家の形成過程で、トルコ以外のアイデンティティの表明が長らく制限されてきた。そうした中、1960年代以降、次第にクルド問題が社会主義的文脈で取り上げられるようになり、1970年代から80年代にかけて、出版物の刊行を含む左派のクルド系政治組織の活動が活発に行われるようになった。しかし、彼らの出版物は公の場からは排除され、トルコ国立図書館においても保存されていないため、これら組織の活動や主張について不明な点は多い。

これらの組織は、1980年クーデター前後にトルコで活動の場を失い、多くは亡命先の欧州に活躍の場を見出すことになる。欧州に拠点を移したクルド系組織によって刊行された出版物は、現地のトルコ系・クルド系労働者に向けたものと、移住国のヨーロッパ系住民に向けたものの二つが存在する。特に、左派のクルド系組織に先行して欧州に移住していた労働者たちの大半は政治活動とは無縁だった人々であり、出版物は、彼らをクルド人として啓蒙する役割も担っていた。さらに、欧州で刊行された出版物は、労働者の帰郷の際になどにトルコに秘密裏に持ち込まれることで、トルコのクルド人に対する啓蒙の役割も果たした。

トルコでは語ることのできなかつたクルドアイデンティティや「クルド性」について、1980年クーデター前後に欧州で活動していたクルド系組織の刊行物での言説を中心に提示し、それが欧州のクルド人およびトルコのクルド人にどのように影響しているのかを考察する。